

総務課 NEWS

第58回通常総会が開催される

当協会の平成17年度の事業報告並びに収支計算書等を承認する第58回通常総会が平成18年5月30日に新潟市万代「ホテル新潟」を会場に開催されました。当日の出席者は会員81名中、本人出席29名・委任状出席48名でありました。

総会は萬歳会長の挨拶に始まり、来賓の県農林水産部長・武藤敏明氏より祝辞をいただきました。

萬歳会長の挨拶では、BSEや鳥インフルエンザの発生、またアメリカ産牛肉の輸入再開問題等で、消費者から安全・安心がしっかりと確保された畜産物の安定供給が求められており、加えて、5月29日から食品衛生法改正による「ポジティブリスト制度」が施行され農薬、飼料添加物及び動物用医薬品の食品への規制基準が設定されたことから、制度へのしっかりした対応が必要となる事や、畜産経営の安定的発展のためには、安全・安心な畜産物生産体制の確立や生産性の高い畜産経営の育成、さらに耕畜連携による地域一体となった資源循環型農業の一層の推進が重要である等の挨拶を行いました。

続いて、第1号議案 平成17年度の事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録の承認について、第2号議案 役員改選について、附帯決議の3つの議案について審議され、いずれの議案も原案のとおり承認されました。また、総会後に開催された第2回理事会において、会長、副会長、専務理事の互選が行われ、引き続き萬歳会長、大滝副会長、帷子専務理事が再任されました。



総会にて萬歳会長の挨拶

支援業務課 NEWS

「にいがた和牛推進協議会」 総会が開催される

去る6月5日、全農新潟県本部・大会議室において「にいがた和牛推進協議会」の総会が開催されました。にいがた和牛推進協議会は平成15年9月に設立され、今年で4年目を迎えます。県内各地域の和牛銘柄を統一ブランド化し県産和牛の知名度向上と消費拡大を目指す活動を行っております。

平成17年度の主な販売促進対策事業として①東京食肉市場の業者に対して、毎月「にいがた和牛出荷予定表案内」の送付、②産地証明書・シールの発行、③「にいがた和牛取扱指定店」の登録、④販売促進資材の作成と提供、⑤「にいがた和牛感謝の集い」を開催しました。消費拡大対策としては①消費者交流会の開催、②各種イベントへの参加、③広域的PR活動として「新幹線にポスターの掲示」等を行いました。また、生産振興対策事業では、①枝肉共励会等の支援、②「にいがた和牛肥育名人認定事業」を実施し肥育名人と塾生との交流を通じて飼養管理技術等の高位平準化等を行いました。

平成18年度の事業計画は市場拡大対策として①「にいがた和牛商標登録」の出願申請、②県が行う「にいがたフード・ブランド戦略事業」と連携して販売戦略等の検討。消費拡大対策は「にいがたブランド畜産物フェア」を県並びに畜産振興協議会等と連携して行う等が決定されております。



イベント会場にて「にいがた和牛」ポスターの掲示

平成17年度経営診断結果から

～経営改善事例の取り組み～

本協会では実施している畜産経営支援指導事業において、経営改善が図られている事例や継続して良好な成果を上げている事例について紹介いたします。

(酪農経営)

平成15年度から総合診断を開始した事例ですが、当初は繁殖成績悪化や乳房炎の多発により乳量が低迷し、さらに全て購入飼料に依存した体系により所得はマイナスと厳しい経営でした。平成16年に長期不受胎牛、治療困難な乳房炎牛を更新して牛群の整備を図るとともに、既存の草地組合への加入や地域の耕種農家と連携した稲発酵粗飼料の確保により、自給粗飼料確保面積が平成16年に8.8ha、平成17年には10.4haに拡大しました。それらの取り組みにより、平成17年には乳飼比の大幅な低減が図られ、経産牛1頭当り所得は180千円となりました。

区 分	単位	H15	H16	H17
経産牛規模	頭	25.4	19.0	21.7
経産牛1頭当り産乳量	kg	7,214	7,233	7,942
経産牛処分率	%	39.4	73.7	32.2
体細胞数	千個	691	581	361
経産牛平均分娩間隔	月	17.2	15.8	15.5
乳飼比(経産牛当り)	%	56.4	54.1	39.3
経産牛1頭当り所得	千円	▲11	▲70	180

(肉用牛経営)

ア 繁殖経営

4.5haの採草地を基盤とした経産牛20頭規模の県内では大きな経営です。分娩間隔は毎年12カ月台前半、種付回数は1.5回という本県指導指標に近い成績です。この大きな要因は日常のきめ細かな観察とバランスの良い飼料給与等にありまます。

経営成績は繁殖牛の改良と指定交配によって資質の良い子牛を生産し、日齢＝体重以上の成長を維持し高価格の販売により成果を上げています。

区 分	単位	H15	H16	H17	
分娩間隔	月	12.6	12.4	12.2	
受胎までに要した種付回数	回	1.7	1.4	1.4	
子牛日齢体重	kg	1.06	1.05	1.10	
1日給与	濃厚	kg	2.4	1.7	1.7
	粗	kg	7.2	7.5	7.0
子牛1頭	価格	千円	456	497	481
	所得	千円	173	206	159

イ 和牛肥育経営

飼養規模50頭で本県では中規模の経営ですが、以前は幾度か給与飼料の変更があったため、飼料給与体系が定まらず成績が向上しませんでした。4年ほど前から給与技術が徐々に定着してきたことにより、肥育成績が向上し経営成果も安定してきました。しかし、最近では素牛価格の高騰から生産原価が急上昇していますので、一層の生産性向上にむけて努力しています。

区 分	単位	H15	H16	H17	
肥育牛の成績	D G	kg	0.65	0.75	0.72
	枝肉重量	kg	441	461	446
	飼料要求量	kg	14.8	13.2	13.5
	販売価格	千円	886	1,016	1,000
	総原価	千円	796	863	973
	所得	千円	162	221	135

(養豚経営)

当該事例は継続的に総合診断を受診していますが、数年前までは繁殖成績の低迷が課題となっていました。しかし、近年は個体管理の徹底と計画的な更新を実施していることで、成績の向上が見られるようになりました。特に1腹当り分娩頭数、離乳頭数ともに指標値をクリアしており、概ね良好であると考えられます。また、早期離乳を心がけていることから、分娩間隔も148.9日と短く良好で、結果として年間換算離乳豚頭数は23.0頭にまで向上しています。

しかし、当該事例では肥育段階において事故がやや多く発生しているため、今後は疾病予防と更なる衛生管理の徹底による事故率の低減が求められます。

区 分	単位	H15	H16	H17
種豚(♀)規模	頭	50.7	51.2	54.1
1腹当り分娩頭数	頭	10.7	11.0	11.0
1腹当り離乳頭数	頭	8.9	9.0	9.4
離乳時育成率	%	92.7	89.1	94.0
分娩間隔	日	153.5	148.7	148.9
年間回転	回	2.38	2.46	2.45
年間換算離乳豚頭数	頭	21.2	22.1	23.0